

インタビュー項目

名前	河合 秀倫
役職	筒井自治会長（令和5年～）
年齢	40歳（寒川在住36年）
活動内容	<p>自治会長に就任する前は、ごみ当番（分別を行う等の衛生指導員のサポート）以外で自治会に関わることはなく、地域活動に無関心でした…。</p> <p>今は、自治会・地域集会所運営委員会・防災組織の再構築を進めています。また、現職世代とシニア世代の交流を創出し、活発な地域活動を行っています。会員からの相談を受けることが多いのですが、仕事の都合上、時間が足りず対応が追い付かない状況です。他役員や退職されたシニア世代の協力に支えられ、現在、筒井自治会の運営が出来ています。</p>
きっかけ	<p>会長不在の事実を知り、「活発な雰囲気を感じられる自治会活動をしたい」との思いから自治会に関心を向けるようになりました。</p> <p>会長立候補のきっかけは2つあります。</p> <p><娘からの質問></p> <p>娘からの質問や疑問に娘の成長を嬉しく思う一方、地域のことを知らない、知ろうとしてこなかったことを悔しく感じました。地域のことを知るためにも自治会活動に積極的に参加してみようと思いました。</p> <p><家族の安全></p> <p>仕事で県外等の遠方に行っている間、災害等が発生した際の家族の安全のため、地域のつながりや関係がほしいと思うようになりました。有事の際、近隣住民の助け合い（共助）が必要になります。防災面を含めて、自治会活動を活発化させることができましたと思っています。</p>



<p>会長になるにあたって</p>	<p>会長になるにあたってもちろん不安はありました。ですが、中途半端に自治会に関わるよりも会長として組織運営に携わった方が、全体を知ることが出来るのではと思いました。自治会長は楽ではありませんが、日々、自治会の活発化を図るため他役員と協力しています。</p> <p>仕事をしているため、時間を作れるところが限られてしまいます。会員の皆様から会議開催の変更等に関するご協力をいただき、自治会運営をしています。同世代の人は少ないですが、若い世代の人へ、活動に参加することは難しくないことを伝えていきたいです。</p>
<p>印象に残っていること</p>	<p>「人とのコミュニケーションが増えたこと」が印象的です。「人の顔を知ること」「顔見知りになること」でコミュニケーションが生まれる重要さを改めて感じました。</p> <p>また、他自治会長さんと自治会長連絡協議会等で交流をすることで、相談しやすい関係が築け、先達として様々な意見をもらうことが出来たことや、自治会に生じる課題の共有が行えたことも印象的です。筒井自治会の事業として、参考となる活動が多くありました。</p> <p>令和5年度に実施した夏祭りでは、自分が20数年前に担いだ子ども神輿を展示し、今の子どもたちにわくわく感を感じてもらうことが出来ました。私も懐かしい気持ちになりました。</p> <p>今後も多くの方の協力をいただきながら、自治会活動を行い、筒井の色を出していきたいです。</p> <p>(中学校時代交流があった、岡田東元自治会長の三枝さんと「自治会」という場で再会したことに驚きました。)</p>
<p>“地域のつながり”とは</p>	<p>幼 少 期：地域から見守られる 青 年 期：つながりを求めにくい、学校内のコミュニティ 子育て世代：地域で子どもを見守る、子育てコミュニティ シ ニ ア：希薄化したつながりを補てん</p> <p>人それぞれで地域との関わり方は異なりますが、地域との関わりがないわけではありません。地域のつながりは長い人生における重要なコミュニティです。</p> <p>実際に、会長として積極的に自治会活動に参加するようになり、隣近所と顔見知りになりました。何かあった時に助けを求められる関係性になり、安心できています。</p>

<p>自治会・地域住民に望むこと</p>	<p>自治会長として望まれる立場だと思っています。</p> <p>地域のつながりはもちろん重要ですが、過度な要求は自治会運営に支障をきたす恐れがあります。自治会長就任のきっかけに防災意識の観点からも、有事の際は、「遠方の親族より隣近所の一番身近に住む地域の人」こそがすぐに助け合える間柄です。世代格差のない地域のつながりを持ってもらいたいと思っています。</p> <p>商店街や複合施設がない「筒井」だからこそ、「世代問わず人・地域とのつながりをもってほしい」と思います。</p>
----------------------	--